

平成30年度 学校自己評価システムシート（県立本庄高等学校 全日制課程）

目指す学校像	活ある進学校 ～個性を伸ばし、世界にはばたく人材を育成する～
--------	--------------------------------

重点目標	1 高い学力を身につけることができる学習指導の充実と授業研究の推進 2 夢を育み、高い目標に向かってチャレンジする精神を育む進路指導の充実 3 自主・自律の精神に則り、知・徳・体のバランスのとれた人間形成を図る生徒指導の充実 4 県北の進学重視型単位制高等学校としての地域から信頼される開かれた学校づくりの推進
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価					30年度評価(1月29日現在)	
年 度	目 標	評 価	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度
1	【現状】 昨年度、県内の進学校6校を視察し、「本庄高校の学力向上策」をまとめた。今年度はこのプランを実行し、生徒の学力向上を図っていく。 併せて、県の事業等を活用して授業研究や研修会を実施し、授業力向上に取り組んでいく。 【課題】 授業以外(家庭)での学習時間の確保が継続した課題である。また、生徒の学ぶ姿勢をグレードアップさせ、変化する大学入試に対応するため、授業改善の充実を図る必要がある。	①本庄高校の「学力向上策」を実施する。 * 定期考査等の工夫改善を図り、学力向上につなげる。 ②県の事業を活用し、授業改善を充実させる。 ③年間5回の定期考査期間における家庭学習時間を増やす。	①-1 定期考査において各教科で作問検討会を実施する。 ・英数国は科目によっては統一問題を実施する。 ・大学受験に対応した問題を取り入れ、実践力をつけさせる。 ①-2 定期考査後の振り返り授業を実施する。	①・各教科で作問検討会が実施できたか。 ・工夫された定期考査により、基礎力・実践力の向上が図れたか。 ・生徒が定期考査の振り返り授業の内容を80%以上理解できたか。	◆学力向上策を実施し、定期考査等の工夫改善を図り学力向上につなげた。 ①-1 1学期は5教科中3教科、2学期は全教科が作問検討会を実施。4教科で統一問題を実施し、全教科で入試問題を(1~7割程度：教科の特色による)、記述式問題を取り入れ、考査後の検討会を行った。 ①-2 年間5回の定期考査後の振り返りと、知識の定着に向けた授業を実践し、授業観察状況の情報共有も行った。	A
			② キーパーソン育成プログラム事業、未来を拓く「学び」プロジェクトなどの諸事業を活用し、主体的な学びの導入に向けた校内研修を実施し、授業改善を推進する。	②・県の事業に参加し、その成果を各教科で共有できたか。 ・生徒による授業評価が「分かる授業・力をつける授業」、「補習の充実」とともに80%を超えたか。 ・生徒による授業評価や校内研修会をもとに効果的な授業改善ができたか。	◆県の事業を活用し、授業改善に取り組み、教職員の61%が「成果を教科で共有している」と感じている。 ② 未来「学び」プロジェクト公開授業(11/7)。 ② 授業評価アンケートを年2回実施し、授業改善に向けた研修会として学識経験者を招聘し「校内分析会」(7/26)。 ・教科内で情報共有し、自己最終面談で授業についての情報交換を行った。	B
			③-1 「学びのすすめ」の活用により学習意欲を向上させつつ、各定期考査に向けた効率的な学習計画を立てさせる。 ③-2 1年次生に対し学習法講座の定期的な実施により、望ましい学習観、学習方法の確立を目指す。また、生徒同士のピアサポートを推進する。	③・定期考査週間(考査1週間前から考査最終日の前日)における学習時間が、1日6時間以上確保できたか。	◆定期考査週間における学習時間を確保させた。 ③ 生徒18.7%が1日あたり6時間以上の学習時間を確保した。(1年：11.5%、2年：21.8%、3年：22.8%) ・新入生オリエンテーション、特進クラス学習合宿、総合的な学習の時間(1年次)に「学習法講座」を実施、望ましい学習観、学習方法の確立につなげた。 ・大学入試対策として、1年次では、全員に英語検定・語彙検定を受験させ、英検第2回は13倍(93名)の資格取得者が出た。	B
2	【現状】 生徒の高い志を育成し世界に目を向けさせるため、進路講演会や国・県のキャリア教育関係の事業を実施してきた。 安定志向の生徒が多く、国公立大学や難関私大合格に向けて、チャレンジする意欲に欠ける傾向がある。 【課題】 将来のグローバルリーダーの育成に向けて、将来への具体的な展望と最後まであきらめず追求める姿勢が必要である。そのために、個別指導の更なる充実が望まれる。 併せて進路指導の観点から、ガイダンス機能の充実を図る必要がある。	①将来設計学習、キャリア教育の充実を図り、生徒の高い志を育成する。	①-1 将来設計学習の計画的な実践に向けて、2年次生の総合的な学習の時間を活用し、6月に企業人(OBを含む)による講話・座談会を実施する。 ①-2 「進路のしおり」やスタディサポート、FINEシステムなどを有効活用し、個別指導を充実させる。	①・総合的な学習の時間などを活用した「将来設計学習」を計画的に実施できたか。 ・外部講師や本校OBによる講演会を実施できたか。 ・「進路のしおり」やスタディサポート、FINEシステムを十分に活用した進路指導を実施することができたか。	◆将来設計学習、キャリア教育の充実を図り、生徒の高い志を育成した。 ①-1 大学模擬授業(2年次:11/19)や、地元企業関係者による講話・座談会を実施した。(1年:6/20、2年:6/14)「外へ出て社会と触れる～キャリア教育・進路につながる探究」をコンセプトに、2年探究学習のフィールドワークについて実施した。 ①-2 教員の77%がスタディサポートやFINEシステムなどを有効活用し、進路指導を行った。	A
		②進路実績の質的向上を目指して、最後まであきらめない進路指導を実践する。	②-1 総合的な学習の時間などを活用し、3年間を見通した進路指導計画を立案する。 ②-2 3年次生の出願検討会の実施を検討する。	②・3年間を見通した進路指導計画を策定することができたか。 ・出願検討会の実施ができたか。	◆進路、担任を中心に生徒一人一人に細やかな指導が行われた。 ②-1 2年で大学模擬授業(11/19)、3年で大学入試に係る各種説明会(6/6、9/4、10/10)等、進路指導計画に沿って着実に進められた。 ②-2 出願検討会を実施し、情報交換と共通理解の下で出願指導を行った。	B
		③国際理解教育の一層の推進のため、国際交流活動を充実させグローバルな視点を育成する。	③-1 オーストラリア姉妹校への夏の研修やターム留学への参加希望者を増やし、世界に目を向けさせる機会を設けた。 ③-2 オーストラリア等との交換留学及び他国との交流プログラムの実施を検討する。 ③-3 オリピック、パラインピック教育を通してグローバルな視点を身につけさせる。	③・国や県の事業を活用して多くの生徒が国際留学へのかかわり、その成果を発表する機会を設けたか。 ・校内での国際交流展示コーナーやPRにより、研修の参加希望者が増えるなど、生徒の意欲や興味を高められたか。 ・他の機会(国や交流の機会)を増やすなど、多彩で多様な国際理解教育の幅を広げることができたか。	◆国や県の事業を活用して、国際理解教育を一層推進しグローバルな視点を育成した。 ③-1 確かな情報提供により研修への参加希望者が増えた。(夏:15名参加/35名中、ターム:5名参加/7名希望) ・アメリカとブラジルに交換留学生として派遣した2名の生徒による成果発表会を実施した。(12/21) ③-2 姉妹校であるオーストラリア・シドニー・シドニーのほかに、他国との交流プログラムを検討した。(3/31)「オーストラリア」 ③-3 資料・ポスターを活用してパラインピック教育を推進した。	A
3	【現状】 遅刻防止指導、整容指導の継続的な取組により、生徒は規律ある落ち着いた学校生活を送っている。また、文化祭や体育祭などの生徒による自主的な活動や部活動を通じて心身の豊かな成長が促されている。 多くの生徒は概ね良好な人間関係を構築し充実した学校生活を送っているが、一部に心に不安を抱えた生徒がいる。 【課題】 部活動と学習の両立を図り、バランスの取れた人間形成を目指すとともに、生徒一人一人の生活習慣の見直しを促す。	①規律ある態度と主体的に取り組む態度を育成する。	①-1 学校全体の理解の下、挨拶の励行、整容、清掃、安全指導を徹底して行う。 ①-2 生徒による「スマホホルダーづくり会議」等を通じて、ネット利用のルールやマナー、節度ある利用を考えさせる。	①・教員間で生徒指導の共通理解を図ることができたか。 ・ネット利用のルールやマナーについて、注意を喚起することができたか。	◆組織的に整容・交通安全・遅刻防止に取り組んだ。 ①-1 教員の84%、生徒の92%が「生徒指導部が積極的である」と感じている。 ①-2 生徒による「スマホホルダーづくり会議」の結果、生徒会からSNS利用のルールやマナーの提案を行った。	A
		②「時を守り、場を清め、礼を正す」指導を徹底する。	②-1 登下校時のマナーアップを推進する。 ②-2 アルバイトについて適切な指導を行う。	②・交通安全指導を充実し、登下校時のマナーを改善することができたか。 ・アルバイトについての適切な指導を検討し、実践することができたか。	◆PTAと共に、登下校時のマナーアップを推進した。 ②-1 苦情も何件もあり、すぐに対応した。登下校時の痴漢被害について、警察と連携して被害防止に取り組んだ。 ②-2 アルバイト許可願提出の徹底を図っている。	B
		③知徳体のバランスの取れた豊かな成長を促す。	③-1 学業と部活動・生徒会活動・学校行事との両立を目指す風土をつくる。 ③-2 生徒会を中心に諸行事やボランティア活動に主体的に取り組む機会を設定する。	③・部活動と学習の両立ができたという生徒が昨年度より1割増しになったか。 ・生徒会を中心とした諸行事、部活動や有志による生徒の自主的なボランティア活動を活発に実施できたか。	◆バランスの取れた人間力の育成に取り組んだ。 ③-1 部活動の加入率は91%(5月現在)。生徒の70%が「学習と部活動の両立ができて」と感じている。(H29:58%)12の部が県大会出場。うち4つの部が関東大会出場。美術部が全国高等学校文化祭に出品される(H31) ③-2 生徒会を中心に、活力ある学校行事が実施できた。生徒の96%が「学校行事が充実している」と感じている。	A
	④豊かな人間関係を構築できる取組を充実させる。	④-1 養護教諭、教育相談委員会、年次団の連携により、課題を抱える生徒に対する丁寧な支援を行う。 ④-2 外部講師による効果的な校内研修会を実施する。	④・教育相談委員会を定期的に開催し、担任等からの情報を共有できたか。 ・ケースによっては外部の専門機関につなげることができたか。	◆課題を抱える生徒に対する丁寧な支援を行った。 ④-1 教育相談委員会の定期的な開催により、情報共有できた。教員の83%が「生徒の悩み等に関する相談に適切に対応している」と感じている。 ④-2 昨年度と同様の大学教授を招聘し、系統的な職員研修会を実施した。	B	
4	【現状】 進学重視型単位制高校として、34単位の授業を展開している。土曜授業や特進クラス、探究学習などの取組が地域に浸透し、本校に対する期待が広がっている。昨年の高校入試では、北部地区で最も高い倍率を実現した。 【課題】 学力向上につながる具体的な取組と、活発になってきた国際交流活動を定着・活性化させ、更なる特色化を図っていく。また、教職員の意識の共有を図りながら、大学や研究機関、地域との連携を強化し、県北の伝統校として真の「活ある進学校」を目指す。	①進学重視型単位制の特色を生かした学校運営の充実を目指す。	①-1 生徒一人一人の進路希望に応じた「科目選択」指導を充実する。 ①-2 本校の教育活動の特色の一つである「探究学習」を効果的に実施する。	①・わかりやすい「科目選択ガイド」が実施できたか。 ・「探究学習」の在り方について、よりよい方向性を見出すことができたか。	◆進学重視型単位制の特色を生かして学校運営を行った。 ①-1 生徒の83%、保護者の89%、教職員の87%が「生徒の個性や能力を伸ばしている」と感じている。 ①-2 総合的な学習の時間を活用し、探究学習のフィールドワークのプレゼンテーションを実施し(12/19、文化祭)、校内通路での展示発表も行った。	A
		②本校の魅力を広く発信し、生徒募集につながる取組を一層充実させる。	②-1 パブリシティ(学校情報のマスコミへの提供)による効果的な学校PRを推進する。 ②-2 情報管理部と管理職が連携し、学校HPの情報発信を工夫する。 ②-3 学校説明会の運営を工夫し、中学生及びその保護者に効果的な情報提供を行う。	②・新聞、テレビ、ネットなどのアップデートな情報媒体へより多く提供できたか。 ・学校HPの内容を最新情報に更新することができたか。 ・学校説明会で適切な情報提供ができたか。 ・中学生・保護者が参加は延べ2300名に達したか。(昨年度2150名)	◆本校の魅力を広げ発信し、生徒募集につなげた。 ②-1 今後も学校PRのためのパブリシティの充実を図る。 ②-2 生徒の84%、保護者の82%、教職員の85%が「地域や保護者に情報提供を積極的に行っている」と感じている。 ②-3 学校説明会では、生徒会や吹奏楽部等の協力により適切な情報提供を行うことができた。2,265名の中学生・保護者が参加した。(昨年:2,150名)	A
		③地域から信頼される開かれた学校づくりを推進する。	③-1 PTAや同窓会、ロータリークラブとの連携により、良好な活動が実施できたか。 ・地域の小中学校とのスポーツ交流や学習ボランティア等を円滑に実施できたか。 ③-2 地元や近隣小中学生の意識啓発事業、地域の教育委員会、関係機関、塾、地域の方との密接な連携と情報交換を行う。	③・PTAや同窓会、ロータリークラブと連携を密にし、良好な活動が実施できたか。 ・地域の小中学校とのスポーツ交流や学習ボランティア等を円滑に実施できたか。	◆生徒・保護者・地域に信頼される学校づくりを行った。 ③-1 昨年度、同窓会奨学金制度が創設され、今年度も10名の生徒が選出された。PTAとの連携は円滑に行われた。 ③-2 地域の小中学校や特別支援学校との学習支援ボランティアや出前授業を行い好評を得た。本庄市の主催する市民講座の運営に関わりスポーツ交流を行い好評を得た。今後も継続す	A

学校関係者評価	
実施日	平成31年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

○新しい入試制度(特に英語関係)について、英検の全員受験や、補習などの対策をとっていることは心強い。(委員)

○検定の受験料等の課題もあるが、生徒に望ましい形で進めていただきたい。(委員)

○システムシートの評価が「A」が増えてきているようだ。アンケートからも、生徒の勉強や学校生活に対する姿勢が良く変化していることが見て取れる。とても良いことである。(委員)

○定期考査中も含め、学習時間を増やすためには、『勉強することの必要性』を常に感じさせながら、クラスでも勉強する雰囲気づくりをしていただけると自分たちもさらにやる気になる。(生徒)

○アンケートでの「入学して(させて)よかった」の項目が、教職員・保護者より生徒の方が低いことが気になる。その理由について分析し、対策を考えていく必要がある。(委員)

○高校生として多感な時期でもあるが、メンタル面でフォローしていただければ何が何よりかもしれない。(保護者)

○進路を考える上でも、社会生活に必要なマナーも考えさせていくことは大切である。(保護者)

○活性化してきた国際交流活動を安定させ、「学校の特色」としてさらに充実させ、PRする。

○生徒は、髪型・身だしなみ・時間を守る等の自己管理について高く評価している。また、教職員の共通理解のもと、遅刻防止指導、整容指導の継続的な取組により、生徒は規律ある落ち着いた学校生活を送っている。(委員)

○安心・安全な教育環境を維持・管理していくことは重要なことである。特に、高校生であっても防犯ブザーを携帯していることで、生徒自身が自分の身を守る意識を持っているのではないかと。女子だけでなく男女とも携帯させることも検討してみたい。(委員・生徒)

○清掃状況について、さらに徹底した指導を継続していただきたい。保護者や来校者にとって、清掃が行き届いているかは大変興味深いことである。(委員・保護者)

○ボランティア活動で地域にだいが貢献しているようだ。地域から信頼される学校として、今後も続けていただきたい。(委員)

○高校時代の地域との交流活動は、生徒の考え方や学校生活の中で自信につながる。その後の人生においてもプラスになると思う。(委員)

○学校評価アンケートについて、保護者が具体的に答えてくれているようだ。今後も個別の情報については、ホームページで的確に提供していただけたらとありがたい。保護者は学校に関心を持ち、さらに協力と連携が充実すると思う。(委員・保護者)